

〈学界消息〉

◇日本環境教育学会第3回大会（愛知）

本学会の第3回大会が、1992年5月16日・5月17日の2日間、愛知教育大学を会場にして約40名の参加者を得て開催された。発表内容は以下の通りであった。

特 別 講 演

5月17日（日）

「子供と自然」

河合雅雄（日本モンキーセンター所長）

シンポジウム I

5月16日（土）（全体会）

「今、求められている環境教育」

司 会：柴田敏隆（ナチュラリスト）

話題提供：金田 平（日本自然保護協会）

進士五十八（東京農業大学農学部）

山田卓三（兵庫教育大学）

シンポジウム II

5月16日（土）（5会場で同時進行）

A. 環境教育のトレンド その魅力と問題点

コーディネーター：川嶋 直（財・キープ協会）

話題提供：稲本 正（オークヴィレッジ代表）

高田 研（豊中市立第八中学校）

川嶋 直（財・キープ協会）

B. 都市と農村を結ぶ環境教育

コーディネーター：木俣美樹男（東京学芸大学）

鈴木善次（大阪教育大学）

話題提供：鈴木善次（大阪教育大学）

明峯哲夫（やほ耕作団）

田中惣次（指導林家）

大脇知芳（財・農村開発企画委員会）

木俣美樹男（東京学芸大学）

C. 心とからだの環境教育

コーディネーター：川村協平（山梨大学教育学部）

話題提供：川村協平（山梨大学教育学部）

松岡信之（国際基督教大学）

金森正臣（愛知教育大学）

D. 国際的視点からみた環境教育

一開発教育・国際理解教育・平和教育など一

コーディネーター：阿部 治（埼玉大学教育実践指導センター）

渡辺隆一（信州大学志賀自然

教育研究施設）

話題提供：上田啓子（社・日本ユネスコ協会連盟）

岩崎裕保（京都芸術短大）

原田 泰（化学技術研究所）

中野佳昭（大阪府立山本高等学校）

E. 大河川下流部の自然環境と教育

一長良川を中心として一

コーディネーター：芹沢俊介（愛知教育大学）

話題提供：杉浦 孜（愛知教育大学・化学）

芹沢俊介（愛知教育大学・生物）

山内克典（岐阜大学・教育・生物）

加藤守言（愛知教育大学付属岡崎中）

小 集 会

5月16日（土）（7会場で同時進行）

1. 学校教育における環境教育の展望 II

一小・中・高の関連性をさぐる一

世話係：長畑 実（名商大付属高）

植田善太郎（泉大津市立条東小）

福島 古（東大阪市立花園中）

藤岡達也（大阪府立勝山高）

2. ネイチャーセンター研究会

世話係：小林 毅（CES）

3. 大学における環境教育の経験交流会第2回

世話係：和田 武（愛知大学）

4. 学校5日制と環境学習

世話係：赤尾整志（グローバル環境文化研究所）

5. 幼児期の環境教育
世話係：近藤正樹（白梅学園短期大学）
6. 自然観察の活動は何を目指すか
世話係：相池 満（愛知県自然観察指導員）
7. 野生動物と環境教育
世話係：立澤史郎（京都大学人間環境学研究室）
森 美文（財・日本自然保護協会）

自由集會

5月16日（土）

「野人集會」

世話係：横山 緑（自然文化誌研究会）
中込卓男（自然文化誌研究会）

一般講演

5月16日（土）（5会場で同時進行）

地球規模の環境教育の展開—日本はどのような寄与ができるのか—

原田 泰（化学技術研究所）

熱帯林問題と環境教育

渡辺隆一（信大志賀自然教育研究施設）

OECDと環境問題

天野之弥（OECD東京広報センター）

風景の作法—国定公園内の放牧場

庫本 正（秋吉台科学博物館）

環境教育基礎論

岩田好宏（千葉県立千葉高等学校）

生態系保全の考え方—生態系保護指標値の提案—

小瀬洋喜（岐阜市立女子短期大学）

間伐材を利用したアルプホルンの制作と生涯学習効果

中川重年（神奈川県林業試験場）

住民参加の森づくり「玉川きずな森」の管理と参加者の意識

中川重年（神奈川県林業試験場）

環境緑化をめざしたブナの植樹活動

和田 清（信州大学教育学部付属志賀自然教育研究施設）

環境教育を用いたムラおこし

平沢信夫（学・小小学園長野教育センター）

新たな森林利用と環境教育に関する一考察（Ⅱ）
—Tサマーキャンプ実践事例報告—

関岡東生（東京農業大学林学科林政学研究室）
森は海の恋人

矢間秀次郎（三多摩問題調査研究会）

島山重篤（牡蠣の森を慕う会）

環境教育におけるネイチャーゲームの役割

小泉紀雄（日本体育大学）

ベオグラード憲章に示される環境教育の目標におけるネイチャーゲームの役割

大島順子・降旗信一（ネイチャーゲーム研究所）

自然系博物館を利用した環境教育の実践化に関する基礎的研究(1)

渡辺美春（川崎市立東小田小学校）

鈴木善次（大阪教育大学）

ユース・ホステルと環境教育

山本幹彦（財・京都ユース・ホステル協会）

環境教育の独立プロとしての役割と課題

佐藤初雄（国際自然大学校NATS）

大学の一般教育としての環境教育(1)理念、目的、意義

和田 武（愛知大学）

大学の一般教育としての環境教育(2)愛知大学での実践

和田 武（愛知大学）

大学における環境教育の専門教育と一般教育よりのアプローチ

小瀬洋喜（岐阜市立女子短期大学）

大学生の環境態度：社会的ジレンマの知覚

佐古順彦（早稲田大学人間科学部）

安藤孝敏（早稲田大学人間総合研究センター）
大学における参加型環境教育の実践とその意義

高山 進（三重大学）

環境教育としての「からだ学」(1)—体育教育の新しい視点—

松岡信之（国際基督教大学）

徳山郁夫（千葉大学）

環境教育としての「からだ学」(2)—体育実技と野外教育における試み—

徳山郁夫（千葉大学）

松岡信之（国際基督教大学）

心とからだの環境教育(3)－血液循環動態からみたからだの環境づくり－

川村協平（山梨大学教育学部）

現代社会における精神環境と環境教育の役割－ニヒリズムと生きることの意味－

小谷英子（甲南大学総合研究所）

自然環境を使ったカウンセラー成長のためのプログラム

亀井敏彦（はこ心理教育研究所）

金森正臣（愛知教育大学生物）

5月17日（日）（5会場で同時進行）

環境教育の方法論とその実践に関する研究7. 農山村エコミュージアムについて

木俣美樹男（東京学芸大学野外教育実習施設）

岡本達治（自然文化誌研究会）

瀬戸市における「物見山自然観察会」と環境教育の輪の発展

北岡明彦（瀬戸自然の会）

北岡由美子（物見山自然観察会）

金森正臣（愛知教育大学生物）

エコロジーン思想に関する政治学的整理

山口祐司（南京都学園政治学）

環境教育施設におけるW型の解説方法に関する計画論的考察

小河原孝生（生態計画研究所）

二酸化窒素測定運動による大衆の環境教育

杉浦公昭（東洋大学工学部）

都市におけるフィールドワーク

山岡寛人（東京大学教育学部付属中学・高校）
都市の旧河川をたどるフィールドワークの試み

小川 潔（東京学芸大学教育学部地球環境科学）
ため池の自然と環境教育

相池 満（東海市立船島小学校）

巨大地図遊びによる環境教育の試み

小浜明・江成敬次郎・中山正与・斉藤孝市（東北工業大学）

考古学的視点から考えた環境教育の実践活動

山口誠治（大阪文化財センター）

犬塚康博（名古屋市博物館）

自然教育の実践的取り組み 1. 野鳥観察の再検討と2、3の試み

小川 巖（野生生物情報センター）

野生哺乳類を素材とした環境教育の展開とその効果

小林 毅（CES：自然教育研究センター）

今・愛知が危ない

CLEMENS SCHL TER（愛知教育大学・ヨーロッパ文化選修）

ごみ問題と環境教育（その1）

高月 紘（京都大学環境保全センター）

エコライフ・地域活動の担い手と日常生活

榎村久子（奈良文化女子短期大学）

家庭生活と環境の関わりに関するコンピュータソフトウェアの開発

杉原利治（岐阜大学教育学部）

公害行政から環境行政への転換の一考察

育木朋子（聖心女子大学）

鳥越けい子（サウンドスケープ

研究機構・聖心女子大学）

大野嘉章（練馬区公害対策課）

屋敷森からの発信

大野嘉章（練馬区公害対策課）

八尾市における環境教育のとりくみ（やお発・地球をみつめるあなたへ）

堅木照久（八尾市役所環境総務課）

まちのおもしろ探検隊

岩井順一郎（豊中市立中央公民館）

高田 研（スマイル環境教育研究会代表）

環境教育と余暇教育

赤尾整志（グローバル環境文化研究所）

地方自治体における環境教育の取り組みの地域比較

千葉 亮（株式会社三菱総合研究所）

みどりの活動での環境教育－小学校5年生の体験学習から－

細山田三郎（鹿児島大学教育学部）

自然の持つ教育力の子供への影響

山田久仁子（安城市立桜林小学校）

金森正臣（愛知教育大学・生物）

手描き地図にみる子どもの環境知覚とその比較文

化

寺本 潔 (愛知教育大学・地理)
 吉松久美子 (大東文化大学・文化人類学)
 養護学校との交流における河川の持つ教育力
 榊原秀夫 (安城市立桜林小学校)
 金森正臣 (愛知教育大学・生物)
 環境教育における感性の高まりについての研究－
 人間と自然の係わりを通して－
 太田功一 (阿南市立福井小学校)
 八田昭平 (鳴門教育大学・教育方法講座)
 川の生物を通して、自然との共鳴感を育てる
 本庄 眞 (奈良県榛原町立東榛原小学校)
 小学校生活科における環境教育
 加藤武・菅井啓之・桐山佳晃 (大阪教育大学付属
 池田小学校)
 自然との出会いが育む豊かな感性・活動意欲
 川角正彦 (安城市立文山小学校)
 矢作川における生活科の実践
 池田比呂子 (安城市立桜林小学校)
 金森正臣 (愛知教育大学・生物)
 環境教育の視点からみた“校庭”－その役割とモ
 デルプラン－
 清里環境フォーラム「学校」研究部会
 杉浦嘉雄 (財せたがやトラスト協会)
 飯沼慶一 (成城学園初等学校)
 森林を核とした国土学習のあり方－林業学習から
 森林文化教育へ－
 山下宏文 (品川・第二延山小学校)
 小学校における環境教育の教材化「土の学習」Ⅱ
 植田善太郎 (泉大津市立条東小学校)
 カブラハバチ *Athalia rosae ruficornis* の胚子発
 生に与える殺虫剤および除草剤の影響について－
 環境教育教材の一例として－
 加治明日香 (東京学芸大学理科教育)
 北野日出男 (東京学芸大学理科教育)
 小・中学校の連携した環境教育のあり方の摸索
 －おもに野外での環境体験教育活動の実践を通し
 て－
 瀧崎吉伸 (愛知県豊橋市立東陽中学校)
 環境教育と農業教育の関連－「食と農」に関する
 学習のすすめ－

鈴木善次 (大阪教育大学)
 水環境を素材としたカリキュラムの開発－中学校
 における環境学習モデル－
 小西吉治郎・川嶋宗継 (志賀大学・教育)
 中学校社会科歴史学習における環境教育－「巨大
 都市江戸と森林」の実践－
 伊原浩昭 (千葉県教育庁主任主事)
 中3理科2分野における研究発表による環境カリ
 キュラムの試み
 阿部純一・大嶋由紀子 (東京女学館)
 技術・家庭科と環境教育
 石田康幸 (埼玉大学教育学部)
 カタツムリやセミの観察で育った生徒
 小鹿 亨 (安城市立二本木小学校)
 金森正臣 (愛知教育大学・生物)
 中学校の野外活動における生徒の学習意欲と自然
 認識－上高地キャンプと燕岳登山の実践から－
 斉藤昇三 (上越教育大学大学院)
 環境問題に対する中・高校生のライフ・スタイル
 福島 古 (東大阪市立花園中学校)
 赤尾盛志・岡 靖敏 (グローバル環境
 文化研究所)
 井上有一 (奈良産業大学)
 明石市の高校生による自然観に関する基礎的研究
 秦 誠 (千葉大学園芸学部)
 近江慶光 (千葉大学自然科学研究科)
 深見 裕 (兵庫県立明石清水高校)
 環境教育におけるエネルギー・資源問題の捉え方
 についての一考察－高校理科での「資源と人間」
 の取り扱いについて－
 藤岡達也 (兵庫教育大学・大阪府勝山高)
 高等学校「地学」における気象を題材にした環境
 教育－実践と問題点－
 阿形昌宏 (甲子圏学院高校)
 鈴木善次 (大阪教育大学)
 ディベートによる環境学習
 荒木国臣 (愛知県立中村高校)
 環境教育教材の現状とその分析(1)教材構成と用
 語・概念
 佐島群巳 (日本女子大学)
 田中敏久 (杉並区立高井戸第四小)

伊原浩昭 (千葉県教育庁)
 田邊佳伸 (杉並区立桃井第三小)
 山下宏文 (品川区立第二延山小)
 鈴木 真 (杉並区立桃井第四小)
 伏木久始 (文化女子大附杉並中・高)

環境教育教材の現状とその分析(2)最適教材の構成の視点

佐島群巳 (日本女子大学)
 田中敏久 (杉並区立高井戸第四小)
 伊原浩昭 (千葉県教育庁)
 田邊佳伸 (杉並区立桃井第三小)
 山下宏文 (品川区立第二延山小)
 鈴木 真 (杉並桃井第四小)
 伏木久始 (文化女子大附杉並中・高)

横浜市教育センターにおける環境教育研究Ⅱ—市民の意識・関心と環境教育教材に関する考察—

平田昭雄 (東京学芸大学)
 宮崎裕明 (横浜市立大正中学校)

環境教育の視点を入れた教育過程の編成に関する一考察

拓植幹雄 (宮崎県高千穂町立上野小学校)
 小学校理科「人と環境」をどう教えるか

相池 満 (東海市立船島小学校)

環境問題に対する親子の意識と実践について (I)

乾 有希子・山田英美 (山梨大学・幼児教育)
 思案 環境教育の考え方

近藤正樹 (白梅学園短期大学)

◇日本環境教育学会関西支部 第一回研究大会報告

甲南大学 谷口 文章

関西支部の初めての研究大会が1992年11月21日(土)に甲南大学で開催され、196名の参加者があった。世話人代表の赤尾整志氏から、22回にわたるワークショップの報告があり、シンポジウムによって支部活動の将来の方向を考え、研究大会によって一層の充実をはかるために開催される運びとなった、とその主旨が述べられた。

1) 一般報告プログラム

[自然環境分科会]

座長・山田卓三 (兵庫教育大学)

- ① 楠田直美・深沢健治 (大阪教育大学)
子どもの「自然イメージ」
- ② 谷村岫美 (大阪市教育センター)
自然とのふれあいと環境問題への関心
- ③ 金井塚 務 (宮島自然史研究会)
自然保護と生態学
- ④ 好廣貞一 (龍谷大学) : 自然学校・理念と活動
- ⑤ 菊間 馨 (宮島自然史研究会)
宮島における自然教育
- ⑥ 齋藤三男 (東京都日野台高等学校)
東京都に於ける環境教育研究の現状
[人間環境分科会]

座長：榎村久子 (奈良文化女子短期大学)

- ① 本庄 眞 (奈良県東榛原小学校)
自然との「共鳴感」の提案
- ② 久武哲也 (甲南大学) : 人文地理学と環境教育
- ③ 山田弘司 (日本非鉄金属問屋組合全国連合会)
生産から破棄までの道程を考える
- ④ 中丸寛伸 (甲南大学) : 企業における環境教育
- ⑤ 北村 真 (弁護士) : 環境権をめぐる判例
- ⑥ 小谷英子 (大阪大学) : 精神環境と人間性

Ⅱ) シンポジウム：『環境教育の今日的課題』

- ① 基調講演 鈴木善次 (大阪教育大学)
- ② パネルディスカッション
コーディネーター 谷口文章 (甲南大学)
パネリスト

赤尾整志 (グローバル環境文化研究所)

藤岡達也 (大阪府立勝山高等学校)

高田 研 (豊中市立第八中学校)

原田智代 (大阪教育大学)

山本幹彦 (観京都ユースホステル協会)

一般報告では、自然環境 (座長：山田卓三氏) と人間環境 (座長：榎村久子氏) との分科会に分れて真剣な発表と活発な応答が繰り返された。今回の報告で特徴的なことは、発表時間が20分質疑応答10分、計30分で行われたため、ゆとりのある発表となったこと、そして「自然」と「人間」の両者からのアプローチの大切さを教えられたことであった。

シンポジウムでは、基調講演において鈴木善

次氏は、①「環境教育」を環境時代の教育と考え、②その目標に至る手段を知り、③意識変革とコンセンサスの必要を指摘された。

これを受けてパネルディスカッションでは、学校教育の立場から「環境教育を週5日制から考える」赤尾整志氏、「学校（初等・中等）教育における環境教育の課題と可能性」を述べられた藤岡達也氏、体験教育から「環境教育ひと休み」と焦るときほど周囲の状況を知る必要性を訴えられた高田研氏、地域教育から「一部の人の取り組みから地域全体へ」と母親・主婦の主張をされた原田智代氏、さらに自然環境から「旅と環境教育」について既設のネットワークの再評価と運用について述べられた山本幹彦氏の5名の方に発言願った。ディスカッションについては筆者がコーディネーターとして、まず各々の立場における環境教育の目標の位置づけ、次に、そのための実践について論じて頂いた。講演者、パネリスト、会場が一体となって議論が展開した。結論として、固定した教育制度や認識の一元化を超えた「多様な価値」の尊重こそが意識の変革をもたらすであろうということになった。

環境教育学会の特色は、フィールド（ナチュラリスト、市民運動）、教育（学校、学校外）、理論（研究・教育）、行政（国、地方）の四つの領域が四輪の車となって動く学会であるとも考えられる。今回のシンポジウムを通じて、「ひび割れの地球」から「地球一家共同体」の実現に向けて四輪が調和して動き出した感があった。
(大会運営委員長)

◇日本環境教育学会関西支部の活動（1991年12月～1992年10月）

日本環境教育学会が発足する1990年5月に先立ち、日本環境教育学会準備会としてワークショップを開催し、1990年6月に関西支部が発足した後は、ほぼ月1回の「関西ワークショップ」の開催、ニューズレター「関西エコメール」の隔月発行をしている。1992年8月現在、ニューズレター購読者は185名で、その内120名

が学会員（関西支部会員）である（1991年10月までの活動についてはVOL. 1, No. 2に既に記載済）。

○ワークショップの開催（話題提供者及びテーマ）

1991年

第14回（12/7）

山田弘司（日本非鉄金属商工連合会）「宗教思想と環境倫理」

1992年

第15回（1/25）

環境教育シンポジウム「環境教育から余暇教育を考える」

第1部：重松敏則（大阪府立大学）「ラベンダー池自然公園（ロンドン）の子どもたち」スライド映写とお話

第2部：シンポジウム

〔基調講演〕瀬沼克彰（宇都宮大学）
「余暇教育とは何か」

〔パネルディスカッション〕

コーディネーター：

鈴木善次（大阪教育大学）

パネリスト：

谷口文章（甲南大学）

榎村久子（奈良文化女子短期大学）

上村 賢（大阪南YMCA）

第16回（2/22）

本庄 眞（奈良・東榛原小学校）「楽しい自然環境学習」

第17回（3/21）

松林 昭（京都・光華小学校）「小学校では環境教育をどのように指導するか」

第18回（4/18）

久山喜久雄（『法然院森の教室』代表世話人）
「里山での環境教育の実践」・むささびウォッチング

第19回（6/27）

岡 靖敏（グローバル環境文化研究所）「ブラジル地球サミット報告」

第20回（7/25）

岩崎裕保（京都芸術短期大学・開発教育資料

センター運営委員長)「開発教育の視点から環境教育を考える」

第21回(9/21)

マーク・ベントン(地球教育研究所)「地球教育について」

第22回(10/31)

武田 章、出野上良子、中道貞子、藤川宜雄(奈良女子大学附属高等学校)「総合学習『環境学』への取り組み」

○ニュース・レターの発行(『関西 ECOMAIL』)

第10号 1991. 12. 25

第11号 1992. 3. 13

第12号 5.

第13号 9.

第14号 10.

◇日本自然保護基金日本委員会(WWFJ)の活動

WWFJでは1992年度より環境教育事業を開始し、9月26日に第1回環境教育研究会が開催された。対象別に三つの研究会分科会(幼稚園・小学校、中学校・高校、大学・成人)も組織され、それぞれ11月、12月中に話し合いがもたれた。第Ⅰ分科会には3名の参加があり、幼児教育・小学校教育の現状やあり方について話し合われた。第Ⅱ分科会には12名が参加した。中学・高校の環境教育における優先課題というテーマで話し合われ、教材や情報の不足、教師への教育の必要性などが課題として挙げられた。第Ⅲ分科会では10名の参加者が大学や学校教育の場以外での環境教育の問題点と可能性について話し合った。10月からは『WWFJ環境教育ニュースレター』が発行され、研究会のくわしい報告が載せられている。また、1993年に次のようなシンポジウムも計画されている。

・第1回1月23日13:30~18:00「人間の豊かさ
と自然環境」

講演：大崎正治(国学院大学)、内海愛子(恵泉
女学館大学)、加藤尚武(千葉大学)、大石慎三
郎(学習院大学)

・第2回2月6日13:30~18:00「自然資源の価
値」

講演：室田 武(一橋大学)、森田恒幸(国立環

境研究所)、村上陽一郎(東京大学)、熊崎實
(筑波大学)

・第3回2月27日13:30~18:00「循環型社会と
は」

講演：山口梅太郎(東京大学名誉教授)、西川
潤(早稲田大学)、樋田 敦(理化学研究所)、
熊沢喜久雄(東京農業大学)

◇『家庭科における環境教育指導資料』

日本家庭科教育学会近畿地区会(京都教育大
学教育学部家庭科内)では『家庭科における環
境教育指導資料』を作成し、1992年7月に発行
した。内容は、家庭科における環境教育、小学
校家庭科における環境教育、中学校技術・家庭
科における環境教育、高等学校家庭科「家庭一
般」における環境教育の4章で構成されている。
各学校レベルでの環境教育への取り組み、環境
教育に関連する家庭科の内容、指導実践例、環
境教育参考資料が掲載されている。

◇日本科学教育学会

1992年7月に上越教育大学で行われた日本科
学教育学会第16回年会で課題研究として環境教
育について報告が5件あり、環境教育分科会と
して、5件の報告があった。

◇日本理科教育学会

1992年8月に千葉大学で開かれた日本理科教
育学会第42回全国大会で「理科における環境教
育」というシンポジウムが開催された。また
「環境教育」会場において二日にわたって11件
の発表があった。

◇日本学会会議公開シンポジウム

1992年11月7日、東京大学(駒場)において
「地球環境と科学教育」というシンポジウムが
開かれ、次の4つの講演があった。
「地球の側からみた地球環境」綿坂邦彦(東京大
学)、「地学の立場から—いま地球にながが起
こっているか、地球環境へのとりくみ—」平山
勝美(立教大学)、「物質の立場からみた環境と
教育」大木道則(岡山理科大学)、「環境時代に
対応した科学教育とは？」鈴木善次(大阪教育
大学)